不動心

平成２５年９月
第　３３　号
発行　普照院

皆さん、ジャカランダーという植物をご存知でしょうか。あまり日本では見かけない植物ですが、ブラジルやオーストラリア及び東南アジアではよく見ることができるそうです。日本では沖縄や宮崎県、本州ですと熱海市などに植樹されていますが、本来、亜熱帯地方の樹木になりますので、その北限は氷点下とならない比較的温暖な地域とされています。

ではこの植物がいったいどうしたのかと言いますと、平成 21 年に本堂移転が完了した際に私が記念として植樹したのが、このジャカランダーなのです。

移転が決定した平成 19 年に苗木で購入し、2 年後の植樹当時で全長はまだ 1mほどでした。それが 6 年目の今年の春時点で 4mほどの立派な樹木になったのですが、その花がいっこうに咲く気配がありませんでした。やはり神戸ではこの樹に花は無理なのかな、とあきらめかけていたのですが、あの『遊行上人ご親教』が終わり一息ついた 6 月末に写真のように一房だけではありましたが、みごとな花を付けてくれました。私は仏教僧侶ですから、あまり奇跡だの神秘だのとは言いたくないのですが、今回ばかりは「ああ、時宗遊行上人様が咲かせてくれたのだな。」と思えました。来年の 6 月ごろにはもっとたくさんの房を付けてくれると、今から楽しみにしています。（*8 月末に二度咲きが確認でき、房も複数ありました。とても綺麗です。）

【遊行上人ご親教でのご報告】

時宗遊行上人ご親教にて、「総本山過去帖入り」及び「正授戒」を申し込まれた施主名簿、並びに法要当日に付け回向をお勤めされたお家の回向簿・出席者芳名帳をまとめた記念芳名録が完成しました。

次回の秋彼岸塔婆供養会にて、本尊須弥壇内にご奉納させていただきます。供養会までは閲覧可能ですが、その後は秘本扱いとなりますのでご覧になりたい方は、当日までにご参詣下さい。

お釈迦様の微笑みをもとめて（第２話）

今回は、お釈迦様涅槃（ねはん）の地『**クシナガラ**』です。

左写真は、その聖地に建つお堂の中に安置されているお釈迦様の涅槃像（左上の金色の像）です。そして手前から二番目で黒い袈裟を着てお勤めをしているのが、普照院住職です。たまたま空いていたのでご回向することができたのですが、普通は常に満員状態のようです。

さてこの『涅槃像』、日本ではあまり馴染みがないと思いますが、インドや東南アジアではよく見ることができます。「涅槃」とは、悟りに到達していっさいの苦・束縛・輪廻から解放された最高の境地のことで、特にお釈迦様がお亡くなりになった時を意味します。日本でも 2 月 15 日をお釈迦様涅槃の日としてそのご遺徳をお偲びし、多くの仏教寺院で涅槃会（ねはんえ）がお勤めされています。このクシナガラでも前回お話したルンビニと同様、世界各国の仏教徒が巡礼に来ており、やはりインドにお釈迦様が実在しここでお亡くなりになったことを強く実感出来る場所でした。

ところで皆さん、この涅槃像は『頭北面西（ずほくめんさい）』と言いまして「頭が北を顔が西を向いて」安置してあります。要は北枕ですね。日本では亡くなった方を北枕にしてご安置するのは、お釈迦様と同じ状態にしてさしあげているからです。ちなみにお通夜も同様で、お釈迦様がお亡くなりになった後、世界の生きとし生けるものすべてがお釈迦の死を悼み集い、夜通し生前のご遺徳を偲んだことから始まります。

これらはすべて、命あるもの皆平等であるというお釈迦様の教えがもとになっています。

〔編集後記〕

今年の夏は本当に過酷でしたね。お寺のある兵庫区では、私の記憶では８月に入ってから地蔵盆までの一ヶ月で、地面がわずかに濡れた程度の雨が一度降ったきりでした。昨年、住職の水やりが初心者だったため寺庭の半分くらいの植物が枯死してしまい今年は気合を入れて精進しましたので、なんとか無事夏を乗り切ってくれたようです。しかし今度は水道代が・・・（涙）

合掌

発行；[時宗　慈光山　普照院]　　責任者　小田義宗

〒652-0853　神戸市兵庫区今出在家町４－１－29

電話・ファックス　078－671－1787　　ホームページ　http://fusyoin.com/

ぜひ、お寺のホームページもご覧ください。

特に次世代をになう、若い方々・お子様たちにも教えてあげて下さい。